



平和学習をすすめています

2年生では、来年度の修学旅行に向け平和学習を進めています。これまで2時間の平和学習を行いました。1回目は、戦時下の日本で反戦演説を行った斉藤隆夫さん（兵庫県・出石町出身）のお話。そして、2回目は21歳で特攻作戦に参加し、生還した浜園重義さんのお話。浜園さんは、特攻作戦に理不尽な思いを抱えながら参加すると答えます。もし、あの時断っていたらどうなったのかと上官に問うと「断った者は皆特攻へ行かされた」という答え。さらに、「敵艦を沈めたら帰ってきてもいいか」という質問に「死んでくれ」と答える話などを再現ドラマのビデオで見ました。今日は、2回目の平和学習での感想を紹介します。廊下の掲示板にもそれぞれの平和学習の感想が書かれています。ぜひ、同級生がどんなことを思っているのかを読んでみてください。

1 組

- ・特攻という言葉自体は知っていたものの、いざ映像を見ると残酷で悲しい戦争をいやでも感じさせられました。「爆弾を落としたら戻ってきてもいいか」と聞いた浜園さんの上官の方（沓名さん）が「死んでくれ」と言われるシーンは理不尽というか、納得のいかない気持ちになりました。印象に残っているのが特攻に使われた爆撃機（九九式）を「九九棺桶」と言っていたことです。私の考えではゼロ戦ではない旧式の飛行機を帰ってこない特攻に使用したため、棺桶と言われているのではないのかということです。
- ・今の時代ではありえないな、と思いました。自分より少し年上でまだ若いし、全員行きたくないと思っているけれど、日本を守ろうとして行った人はすごいなと思いました。もし、自分が（特攻へ）行けと言われても、怖いし死にたくないと思って断ります。でも、その時代は命令が絶対なので、家族に迷惑をかける可能性があります。特攻へ行った人たちやその家族、全員がかわいそうだなと思いました。今日のビデオを見て、日本を守るため特攻へ行った人達のためにも、自分たちが世界の平和をつくっていかねばならないと思いました。

- ・初めて知ったことばかりで、涙を流してしまうほど衝撃を受けました。今では絶対に考えられないことばかりなので、心が重く色々考えないといけないなと思いました。正直、言葉を失ってしまうほど、恐怖や悲しみを感じました。印象に残っているのは「帰ってきてもいいですか」に対して「死んでくれ」と言っているところです。甘い考えだけれど、帰ってきてもいいのにと思いました。
- ・僕は戦争はだめだと、改めて思いました。10代後半から20代前半の人達が（特攻へ）行っていると、行きたくないという気持ちが強いけれど、その時代の人達は×を書いたら翌日に特攻へ出されたと知って、なぜだろうと思いました。今まで戦争とは訓練された軍隊の人の戦いと思っていたけれど、若い技術のない人が特攻にだされるなど、恐ろしいことがありました。

2組

- ・一番印象に残ったのは、（浜園さんの上司が）「帰ってきてもいいですか」と言った時に、（司令官が）「死んできてくれ」と言ったところです。
- ・特攻隊は、以前にどこかで聞き覚えがあるという程度だったけれど、このビデオを見て詳しく知れました。今でこそ、日本は戦争がなく平和だけれど、昔は今では考えられないくらい残酷で理不尽だったということが分かりました。ただでさえ戦争は人が死んでいってしまうのに、あんなに将来を期待された若い人が死ぬために飛行機に乗るのはかわいそうだと感じました。
- ・この平和学習を通して、戦争でなにがあったかなどを知り、これからも日本で戦争が起こらないように自分でもできること（修学旅行・平和学習で学んだこと）を後輩に伝えていけたらいいなと思いました。これからの平和学習も真剣に取り組んでいきたいです。
- ・当時、人の命を軽く考えていたことに、そのとき国はなにを考えていたのだろうと思いました。それに21歳という若さで死にに行くということにとっても腹立たしく思いました。終戦後、「この過ちを繰り返さないように」と言っているけれど、本当だなと強く思いました。再現（ドラマ）だとしても特攻や生々しい傷に心が痛くなりました。特攻により、同期生が何十人も死んでいくというのは僕には耐えられないです。やはり、戦争をしても何もいいことなどないなと思えました。
- ・特攻隊に行った人は、皆命を大切にしていたけれど、現代人は「しねー」とか平気で言っている。だから、もっと命を惜しんだほうがいい。簡単に命に関わることは言ってはいけないと思いました。

3組

- 今では想像もできないようなことがたくさん起こっていたんだと思いました。「いや」と言えば家族に迷惑をかけるから、「いや」と言えないような厳しい状況が続いていたんだと思いました。もし、今戦争が再び起こってしまうかもと考えてみたら、とても怖いです。「No」と言えない苦しい社会にはこれからしてはいけないと思いました。このようなことは絶対に繰り返さないよう、私たちが知ることも大切だと思いました。
- 戦争は自分が明日死ぬかもしれないと恐怖を感じながら戦わなくてはいけなくて、とても大変なことだと思っていた。けれど、特攻隊は「死ぬかもしれない」ではなく「死ぬためにいく」ような仕事だと思いながら動画を見ていたら、胸が苦しくなりました。上官の人が「生きて帰ってきてもいいですか」ときいた時に「死んでこい」と言われたのには驚きました。
- “お国のために命をささげろ” このような考えが今のこの日本ではありえないと思いました。私たちと少ししか歳が離れていない若者の明るい未来が一瞬にして閉ざされた時代なんだと改めて感じました。当たり前のように海の上で爆弾が飛び交う映像は本当に恐ろしかったです。日本の悪い波に乗らなければならなかった特攻隊の方々の思いが印象に残りました。
- 今まで特攻やカミカゼ特攻隊は何度もテレビや動画で見たことはあった。けれど、全員が国のためといってあの世に死んでいくものしかなかった。初めて生き残った人のお話を聴いて、手紙では「元気でいてね」など明るいことばかり書いてあるけれど、本当は嫌でやりたくないことなんだということが伝わってきました。
- 今回のビデオを見て残酷で、苦しい思いをした人がたくさんいたことを知りました。僕のひいおじいさんのことも思い出しました。ひいおじいさんはまさに、このような時代に、飛行機からばくだんを落とす任務をしていました。そして、そこがどんな戦場だったのかもわかりました。
- 特攻へ行くこと自体、いやだけれど、当時の人たちは（敵機に）撃ち落とされるのが嫌で、つっこんだ方がましというところまで追い詰められていたんだなと思いました。特攻の直前にお母さんのおだんごを食べている時、太い指の（団子を）にぎった跡を見て、「初めて泣いた」というところに感動しました。（小学校で学んだ）広島とはまたちがった悲しみや絶望を感じ、実際に特攻隊についてもっと知りたいと思いました。

4組

- 6年生の時は原爆のことしか学びませんでしたが、今回は実際に戦った人について学びました。
この話を知って特攻隊の人は本当は皆行きたくないのに反論できず、お国のためと特攻する人は本当に悲しかったと思います。この話でより命の大切さを知ることができたと思います。
- 21歳で行かないといけないのは許せない。それは僕も思ったけれど、この状況で行くことを決心するってすごいなと思いました。国のため、家族のために自分の命を犠牲にしてまですることにすごいと思いました。生きて帰ってこれても国を守れなかったことを悔しがる場所にびっくりしました。命をもっと大切に、仲間・家族のことをもっと考えていきたいと思いました。
- 若い人達が死ぬために戦いへ行っていたと知って驚きました。国のために戦いたい人がいたことにも驚きました。でも、そんな人でも死にたくて戦っているわけじゃないのに、帰ってきていいですか？ときいた時、死んでくれというのはひどいと思いました。終戦の前日にも亡くなった方がいると知って、もっと早く負けを認めていれば助かった特攻隊の方もいたのにな、と思いました。
- 私の兄くらいの歳の方が特攻へ行っていたんだなと思いました。戦争は何も生まないので、他の国も戦争はやめてほしいなと思いました。私が戦争中、特攻へ行けと言われたら逆らえないし、そこで戦死すると思いました。今は平和な世の中だけれど、昔は人がたくさん死んで、憎んで殺して、憎まれて…っていう感じなのかなって思いました。自分は戦争を繰り返したくないと思いました。
- 言いたいことも、したいこともできない世の中で「お国のために命を捧げる覚悟はできている」と言っていて、それほど現実に向き合っているんだと伝わりました。そして、あんなにも真剣に向き合った結果があれば、とても悲しいと思いました。今は、平和で戦時中とは環境が違いますが、好きなことにも嫌なことにも真剣に取り組んでいこうと思いました。
- 浜園重義さんは、お国のために命をかけて特攻に行って本当にすごいなと思いました。私だったら、国のために命はかけられないと思います。浜園重義さんは、家族にも会えず、特攻に行くってすごく悲しいと思いました。けがなども負っていて、すごく痛そうでした。知覧へ行って、もっと詳しく知って学びたいと思いました。

浜園重義さんは、映画「ホテル」のモデルでもあります。2012年2月4日に88歳で亡くなりました。